

どの程度ヒントがきているか、見方を変えれば、どの程度被写体の前後がボケているかを知るには、大きく分けて三つの方法がある。

第一は、レンズに付いている『被写界深度目盛り』を使う方法。第二は、カメラのボディの『絞り込みボタン（プレビュー・ボタン）』を使う方法。そして第三は、レンズの使用説明書にある『被写界深度表』を読みとる方法の三つだ。

最も正確なのは三番目の方法なんだが、最初のレンズの被写界深度目盛りを使うやり方が、一般的だろう。この方法だと、ボディに絞り込みボタンが付いていない一眼レフや、旧型ライカのようなレンジファインダー式（距離計連動式）カメラでも、すぐに目安をつけることができる。

熊さん、おめエのレンズの、距離リングと絞りリングの間に、中央の線を挟んで、同じ値の小さな数字が左右対称に書いてあるだろう」。

熊さん 「あつしの玉じゃあ小さな数字じゃなくて、黄色とか青とかオレンズの線が引いてありますねえ」。

御隠居 「それは、小さな数字の代わりだ。意味は全く同じだね。

で、それなら、絞りリングのf値を表す数字で、どこか黄色に塗ってないかい」。

熊さん 「エーと、f11のところは黄色ですねえ。

おや、他のレンズだとf5・6が黄色だ……。へー、いろいろあるんだ」。

御隠居 「別のはいいとして、黄色がf11の50ミリで説明するから。

でな、中央の線のところへ、距離リングの3メートルを合わせてもらん」。

熊さん 「距離リングの3メートルねえ……。これでいいのかな……」。

御隠居 「よしよし。それでだ。次に、左右にある黄色の線が、距離リングと当たったところの、距離をあらわす数字を読んでもらん」。

熊さん 「距離リングの数字はってえと、中央の線の、一方は2メートルちよいで、反対側は、5メートルちよい位の奴でいいんですかねえ……」。

御隠居 「そうだ。その約2メートルく約5メートルがピントの合う範囲で、すなわちこれが、被写界深度ってえわけだ。また、そこから外れた0・45メートルく約2メートル、及び、約5メートルく∞（無限遠）がピントのこない範囲、つまりボケの幅ってえわけだ。わかったかい。

このようにして、レンズの被写界深度目盛りから、被写界深度やボケの幅を知ることができるんだ。じゃあ、今度は、おめエさんの105ミリで、同じようにf11、3メートルの被写界深度を調べてもらん」。